

RiWAVELib

RIEGL 全波形式レーザースキャナー用

- RIEGL の装置で取得した波形データへの簡単なアクセス
- SDF と WFM ファイル形式の為の共通インターフェース
- データストリーム内のタイムスタンプの為のインデックスベース

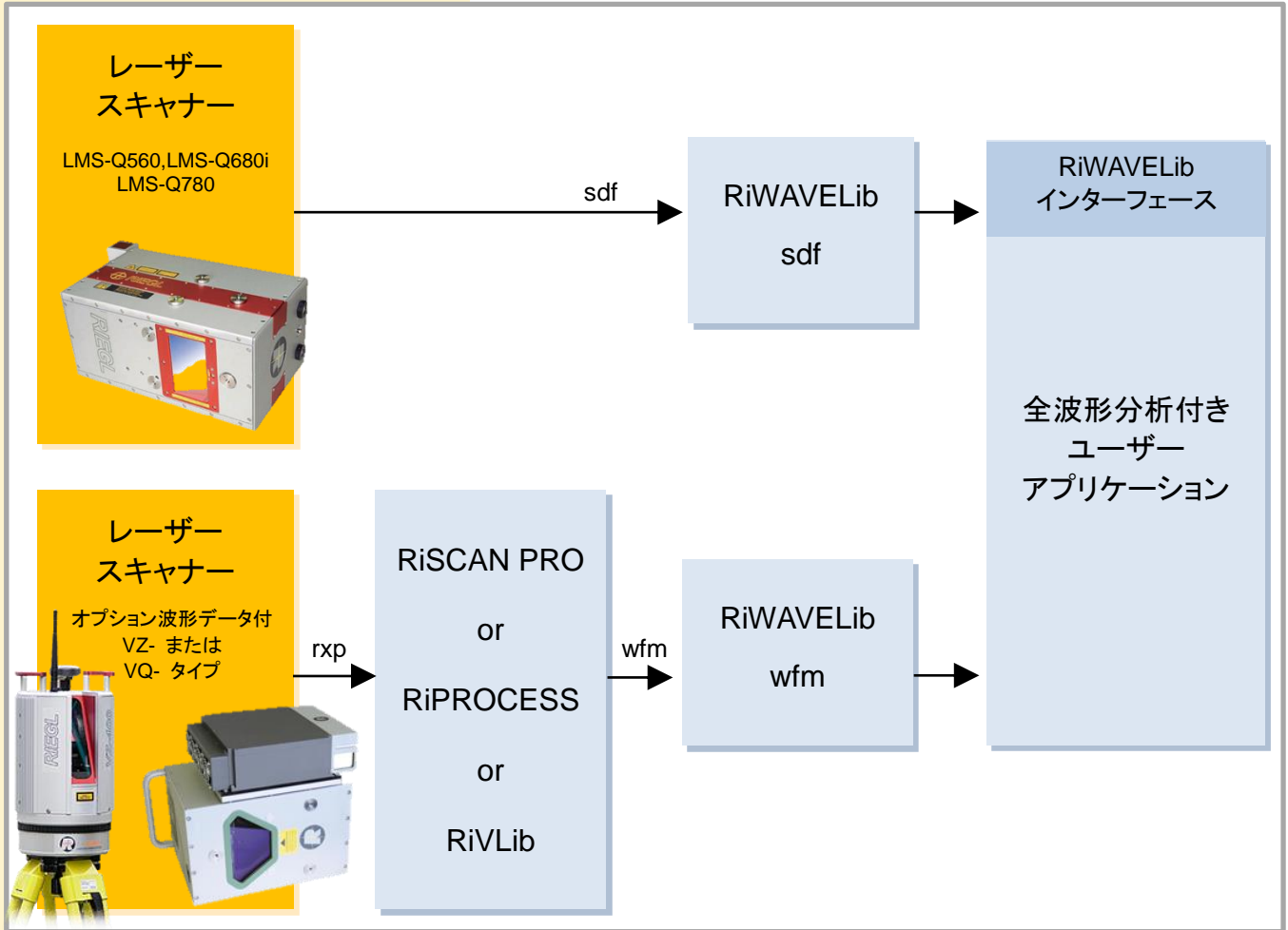
RiWAVELib は、RIEGLレーザースキャナーでのデータ収集で記録されたデジタル化したエコー信号に正しく裏付けされたアクセスを提供します。波形データとしても知られているデジタル化されたエコー信号は、距離情報の推定や波形からの追加データであるいわゆる全波形解析の基礎となります。さらにライブラリーは測定毎にタイムスタンプと測定方向へのアクセスを可能にし、従って、全波形解析用の独自のアルゴリズムに基づいて点群データを導き出すことができます。

RiWAVELib は、RIEGLで使用する2種類の波形データ形式へのアクセスを提供します。LMS-Q560、LMS-Q680i、LMS-Q780 で使用される SDF ファイル形式と VZ シリーズと VQ シリーズの波形データオプションで使用される WFM ファイル形式です。アプリケーションのプログラマーは共通のインターフェースを使って両方のファイル形式の波形データにアクセスが可能です。

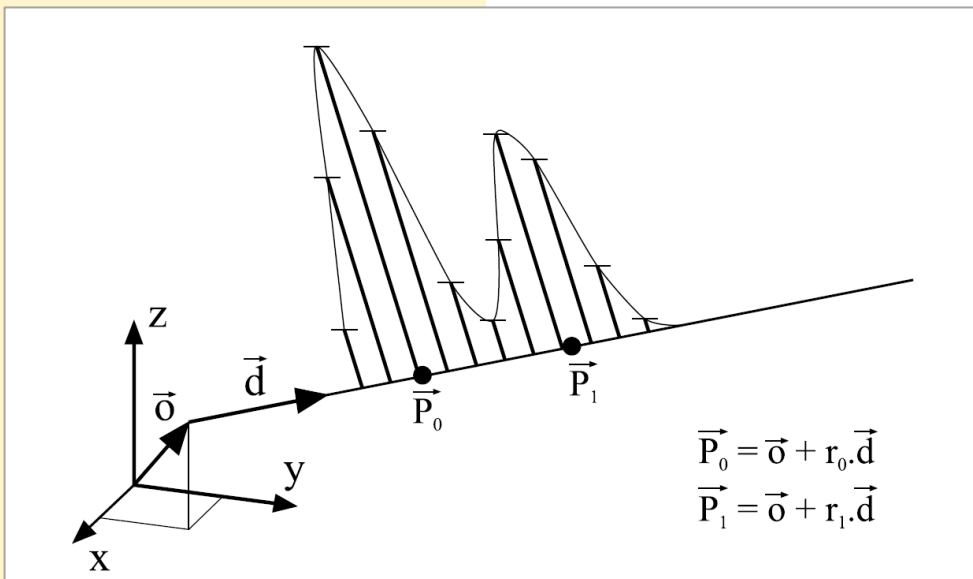
- ライブラリーインターフェースは、C 標準に準拠
- C,C++,Pascal,Python のような様々なプログラミング言語で使用可能
- Linux および Windows®をサポート



RiWAVELib データ処理・解析



RiWAVELib データの流れ



X,Y,Z 軸 : スキャナー座標系

o : レーザー測距原点

d : 光軸の法線方向のベクトル

共に実際のスキャン角度です